詩集第拾遺

前篇

へ 13
3318
5

へ13
3313
5

加永七年

奈良県

大正十年八月十九日
本大学図書部

[illegible]

一[illegible]門屋[illegible]

并 [illegible]

一[illegible]

并 道具[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和漢学問中ごろ熟して
柳下恵の見識より高くて
うやうやしくもまた横逆の
拒絶より拒絶の清節連綿
書筆の陽春書画閑き
く音楽を奏でて花香流れ
のまぐるるまで金銀と
雲風を事ゆぐ湯水の如く
涉史筆の陽の道を慕の本を賞
歌吉の如く詳陽の美味坊の水
を南蛮の古深川の耕地長
国の美麗減紙の雲霧の
ゆゆしき道陳の釜中古代の
味噌書翼学問の花酒より初

きぐ　書ふの おきぐ 筆墨の
面稱 物ゝび 海を 泰平
宮の 食意て 主 第の
貧も 市町 汁 漢集
の 世ぐ 平ぐ 世の 学
海ぐて 言 平 泰
事 古今や 二 月利わ

流と 家道の 切 流
くの 平の 学 聊 家
南 屋が 書 角 舞の 張

丈夫の道 乎 平
若文 忠孝 家
くの 業 切 平 氏 詩

八　交友のまじはりを楽しむ
事しなるは赤玉垂暑れ
青楼うつきの初々ぎん
秋にいろ渋き境の新め
曇れ雪の暁に月まで
茶の湯の風情ぞうし道具
ありとしも好べうらん

珍しき名物ありとも飾り
そろ事しきりなく茶さえあらも
ありし形ちのうつりし縁
しきもの肌ひしし ゆうりはしき
あらし形ちよはあし掻ぐ
いう次数寄者をこうし
且まじ まししなきといひし

一和の道具たちも家々
手持ちまゐり来り初
[illegible]
[illegible]一阪と出来る
[illegible]の[illegible]
の能を[illegible]の能[illegible]
[illegible]

の[illegible]の書つづ[illegible]
[illegible]と[illegible]の茶
の会の書[illegible]
[illegible]

三郎のたち能[illegible]七番
[illegible]
国会の[illegible]費[illegible]
[illegible]

叶ぶべき隙なく父右つ平部
これをもと長人なりしを連体一枠
をもつて主殿の風を渡すべ
つかさ人常用が遠をもつぎき
拾もちて渡す者をよ長べ
をもつて右つし学者の貝殿よ
月しの卯のうまひとをよ

為つ時をつつ縫四つ
嘆住をつ家をつ長の落花
を紙をつ拾き月のをなを
渡をよ人の陽庵竹つ書業
の陽の渡翻平をのをつ主よ
を渡をつ多報をつぶ仏調
主をつ渡の拾藤の諸能のつ

ゆるじまなよしら短き声の
たゞ遠き事までゆるしまで言語の
居の斜に学び文武両道そなへし
たしなみて和歌の道にうとからず詩も作り
の手習をなすべし俗家ならば
背を勧め経学を勤めて
よき聖賢の四書をよめ是をよげ

比せよかし教へんぬれいつの縁
子たるもの親の心を受けしが
ゆゑにまなぶ口今古今和歌教訓ならず
のこの筆を持ちて主にしたがふ筆
也親の心を思ひたまへて
是にまさる事なし[illegible]
事いふ[illegible]

父のことぶよ浜ひ[illegible]きと戒[illegible]
[illegible]ぶよ高[illegible]たるまい古新し
あ[illegible]紀州家の藩士す
つ[illegible]が書とそ[illegible]千隆家智と
ゆ[illegible]ば中右つ[illegible]浜屋しと茶屋
ま[illegible]ん初童よ古[illegible]と
指南しと[illegible]と道[illegible]

[illegible]尾州の[illegible]
金毘羅[illegible]風邪の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の屋今[illegible]人の[illegible]
[illegible]四[illegible]医師[illegible]
[illegible]古新の[illegible]
[illegible]のと[illegible]

夕(ゆふ)の[illegible]を[illegible]金字(ごんじ)の[illegible](みだこ)て
久遠(くをん)[illegible](こうよう)し[illegible]病(びやう)[illegible](あくぎやう)[illegible]し
[illegible](わうじ)子[illegible]の[illegible][illegible](せうくん)て
論(えん)のまゞ[illegible]に[illegible]るゞし風(くぜ)[illegible](びやう)
の[illegible](てい)[illegible]路[illegible](りんせき)のおもひのしきりに
いつも[illegible]神丹(しんたん)[illegible](りうご)の手(て)ならし
一年つまりし[illegible](がんしよく)[illegible]に[illegible](ちやうせん)し

と[illegible]宮[illegible](ぎやうよくこ)[illegible]しゝ[illegible](ちくや)の[illegible]
[illegible]なりしも[illegible](ともし)[illegible]因[illegible](くんいごう)
すゝ[illegible](さんさく)[illegible]こゝろ[illegible]の火(ひ)の[illegible](きえ)ぬ
[illegible](らう)みえ[illegible]もまで(まで)もおもひ知(し)りよりて
[illegible](さく)[illegible][illegible](ちつづけ)より[illegible]を[illegible](きし)
家内の者もあへよ[illegible][illegible](さう)
[illegible](くさい)も[illegible]に[illegible]しと[illegible](ちしゆく)

[illegible]

坂[illegible]孫子年[illegible]狸[illegible]正

治[illegible]武[illegible]今[illegible]

[illegible]の引[illegible]子孫繁昌

[illegible]

[illegible]被[illegible]狸が[illegible]

[illegible]

[illegible]の加護[illegible]

[illegible]の[illegible]護[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人命の[illegible]

中くい中庸の知ぶ定
業の風俗専用して一口の息ぶく
浴二の服ぶ如き能
室ぶ言ぶ枕字の雅
ぶ如き乳ぶ奉ぶ
ぶ六親春屋如ぶ
き歩みぶ隠ぶ

於の果ぶ如ぶ沈ぶ果ぶ
果ぶ果ぶ医ぶ
事の經ぶ如ぶ唯嘉賞の
みぶ業ぶ如ぶ
親ぶ言ぶ義ぶ
出ぶ如ぶ
月ぶ世ぶ

ゆゑ一字も誤なく書述て
道具や家財の品々ハ記年
一うるしの[illegible]身上なりぐ遺状
め姫を生みしも今さらぐ（妹）
の音しうつしにて女の瀬[illegible]
高の新古今[illegible]二条川[illegible]

東鑑よし[illegible]しらきや[illegible]
婦女ハ向ふ子なきにまて[illegible]
書て敬天川の天満宮を心
じんしく一筆を[illegible]川のて年を
祈り申し[illegible]新子[illegible]根[illegible]す
白き手玉垂を竹白骨の落
翁忽然にて来[illegible]擒[illegible]出生

[illegible]

まさ権田原辺より安禅

寺の門よりその内に世尊の古道

として何もまさず罷出し

市に粉でしその利潤を得ると

渡世とまうに中々茶道の

麺類を売り目にて蛇を庭にわづと

罷出し朱もしくれしむ令

まかせしより我にたり其商売

そし茶の湯道具をもつくるに

ひとりしみし明きまでして心の恥をし

居ながら心ろ諸来の恥が又右門

其ちかし茶まわしなるを越

免かれきくる道具のしるしの年

此寺の知りて近所の中にたえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はまぐり蕪（ぶ）生麩（なまぶ）汁（じる）の物なれ共
ことさらの料（れう）に差当て山葵（さん）
出汁（ちうち）して添（だる）し蕪の宮名
是も年（とう）始（はら）しくも吉例（らく）して
なし奉り御会元を敷（しき）て重服（わかん）付（つき）
奉り宮細心の御用（うら）給（ろうき）
して見せ申七十五服（ぶ）まで
薄（うぐ）し手（て）のうちをうへさせぬ内
に五六杯の利（り）を得させ
今日の恵比（えび）須様（さま）なれば
ありがたく存候呉服（ごふく）屋新（ぐ）
行列（えんじん）して見物立（ざ）
に大（おほ）勢（ぜい）捧げ申三郎（ろく）兵
ぬし扨（さて）も茶（ちや）宴（き）

穀の目利も面白き商売

なり其川筋の津々浦々

よりて一まとまりし往還運送

だし何の穀も中しあはせ見計ひ

らし売買の仲間入も念頭におき

かね損益の利分目算の

あらぬ心づきの日毎の折

弥子孫の繁栄そこそこを重ねや

おしてたりし余慶積りあまりてぞ

誠に候

従来る永久萬古指萬両五銭

本主 榮吉